③ 市民・駅利用者の利用実態・津駅周辺に対する意向（利用者アンケート）

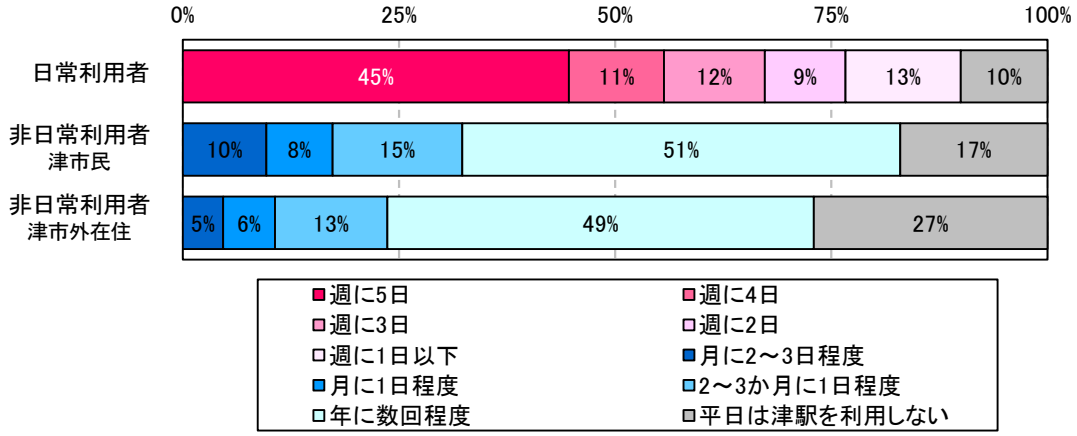
津駅の利用実態と津駅周辺の課題・ニーズを定量的に把握するため、津駅の日常利用者（週１日以上利用）及び非日常利用者（週１日未満、年数回以上利用）を対象に、WEB アンケートを実施しました。

津駅を利用する外出の頻度

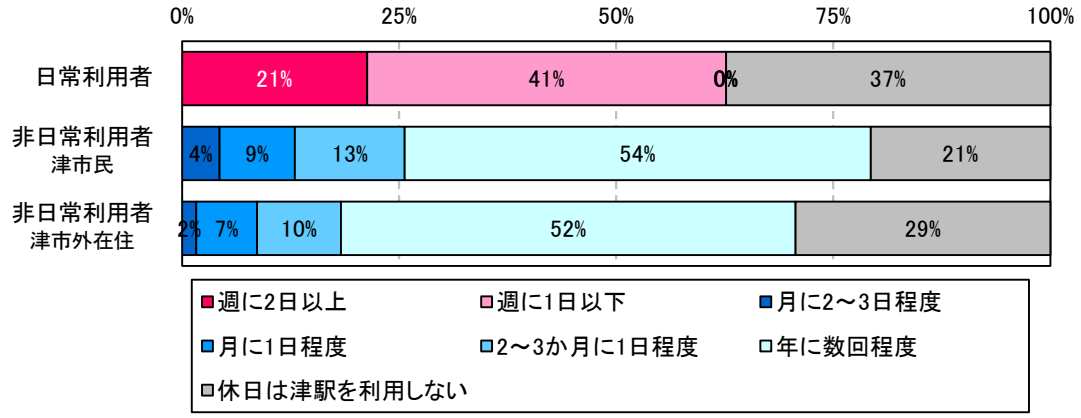
津駅の日常利用者は、平日は「週に５日」利用する人が約半数を占めており、休日は「週に２日以上」または「週に１日以下」利用する人が多い傾向にあります。

一方で、非日常利用者は、平日・休日ともに「年に数回程度」の利用が多い傾向です。

【津駅を利用する外出の頻度（平日）】



【津駅を利用する外出の頻度（休日）】



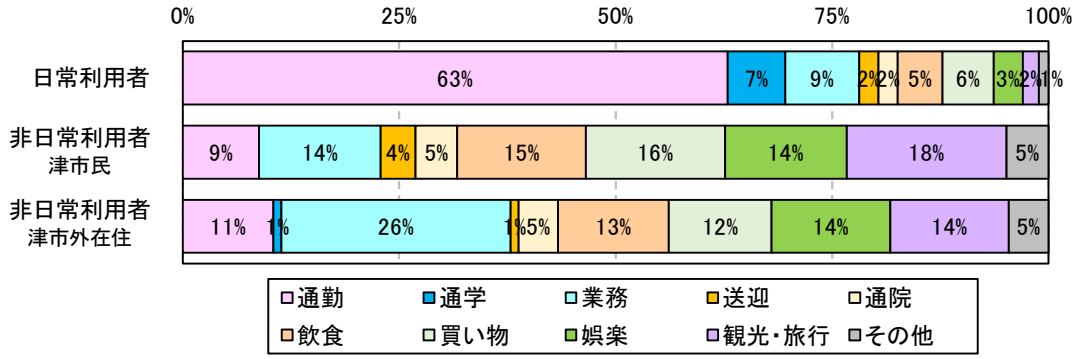
出典：津駅利用者アンケート調査結果（令和４年 12 月調査）

津駅を利用する外出の目的

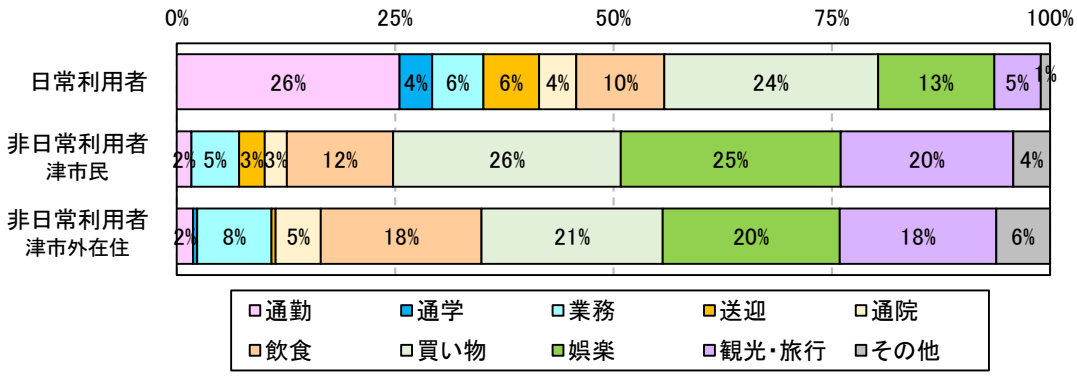
津駅の日常利用者は、平日は通勤・通学・業務利用が多く、休日は、平日と比較して余暇的な利用（飲食、買い物、娯楽、観光）が多い傾向にあります。

非日常利用者は、平日・休日ともに、余暇的な利用が多い傾向です。そのうち、津市外居住者は、平日は業務利用が多い傾向です。

【津駅を利用する外出の頻度・目的（平日）】



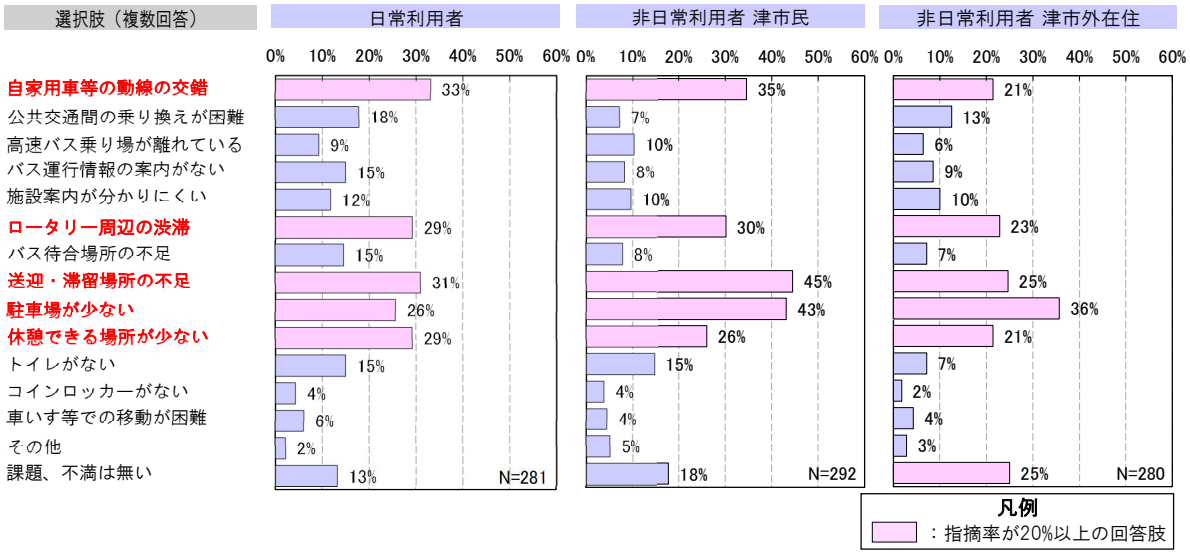
【津駅を利用する外出の頻度・目的（休日）】



出典：津駅利用者アンケート調査結果（令和 4 年 12 月調査）

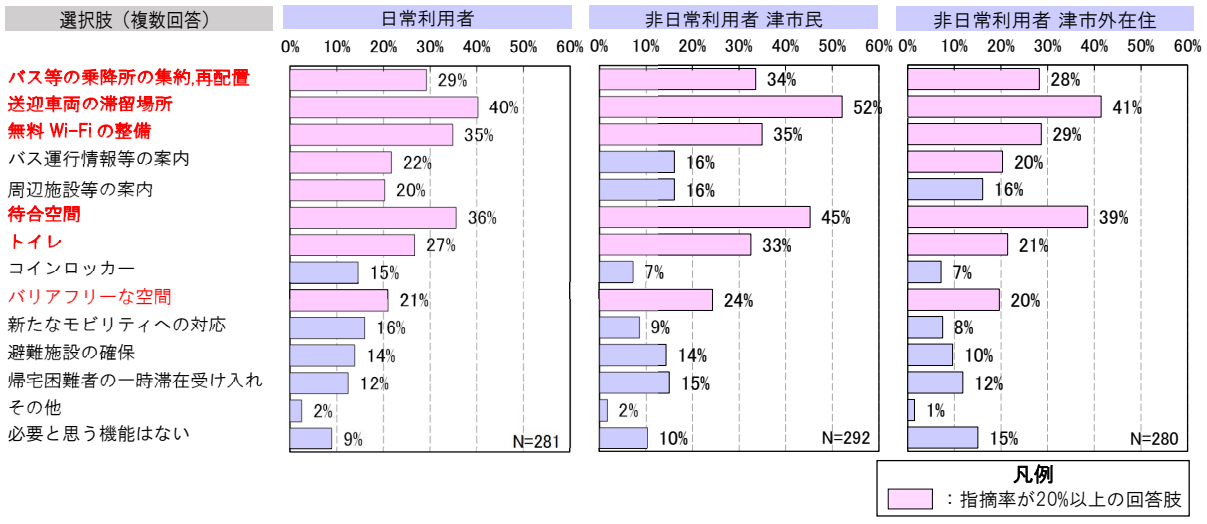
津駅東口駅前広場の不満・課題

津駅東口駅前広場への不満・課題としては、「自家用車等の動線の交錯」「ロータリー周辺の渋滞」「送迎・滞留場所の不足」「駐車場が少ない」「休憩できる場所が少ない」などの意見が多く見られます。



津駅東口駅前広場に必要と思う機能

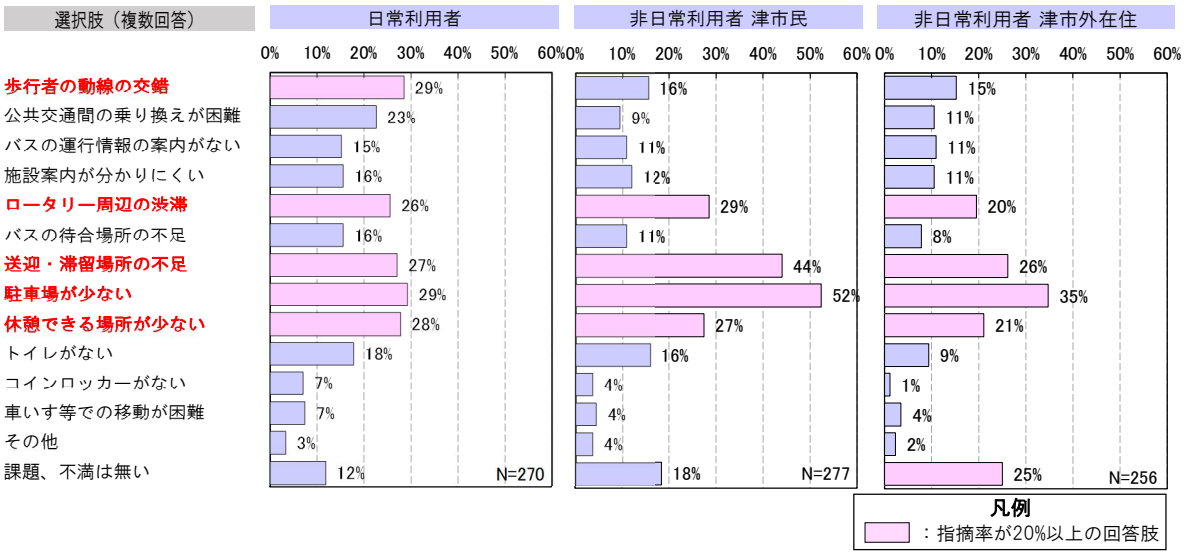
津駅東口駅前広場に必要と思う機能としては、「バス等の乗降所の集約・再配置」「送迎車両の滞留場所」「無料 Wi-Fi の整備」「待合空間」「トイレ」「バリアフリーな空間」などの意見が多く見られます。



出典:津駅利用者アンケート調査結果（令和 4 年 12 月調査）

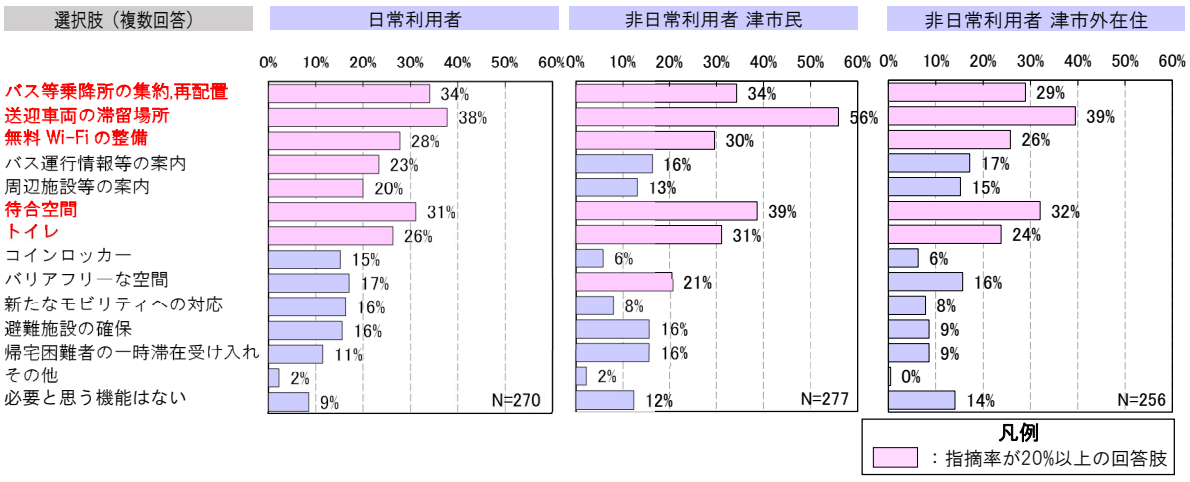
津駅西口駅前広場の不満・課題

津駅西口駅前広場の不満・課題としては、「歩行者の動線の交錯」「駐車場や送迎場所不足といった自家用車利用に関連するもの」「休憩場所が少ない」などの意見が多く見られます。



津駅西口駅前広場に必要と思う機能

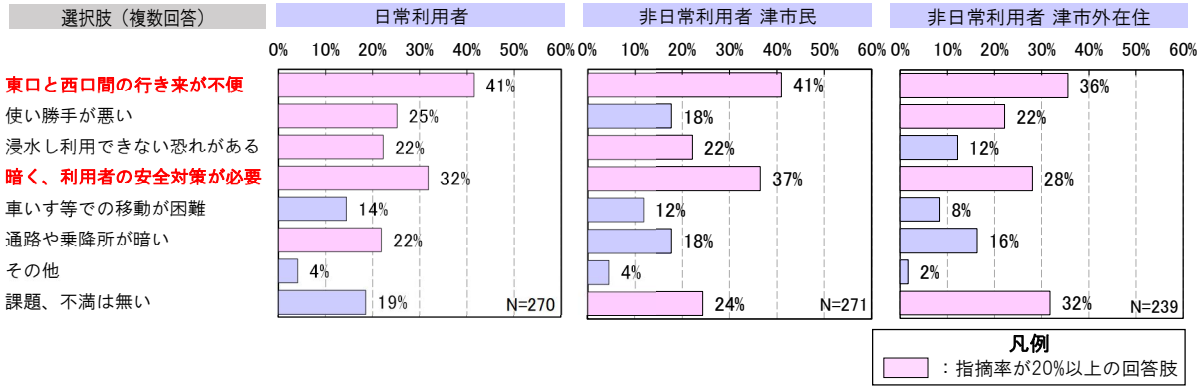
津駅西口駅前広場に必要と思う機能としては、「バス等の乗降所の集約・再配置」や「送迎車両の滞留場所」「無料 Wi-Fi の整備」「待合空間」「トイレ」などの意見が多く見られます。



出典:津駅利用者アンケート調査結果（令和 4 年 12 月調査）

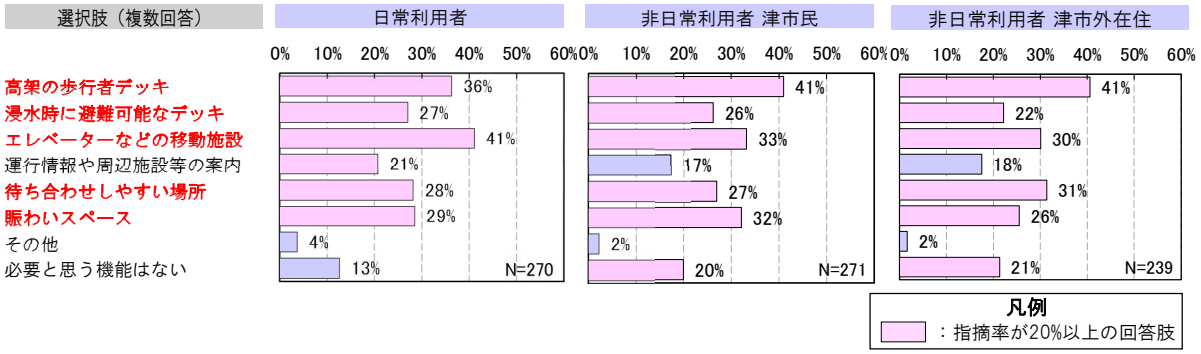
地下道の不満・課題

地下道の不満・課題としては、「東口と西口間の行き来が不便」「暗く、利用者の安全対策が必要」などの意見が多く見られます。



地下道（東西連携機能）に必要と思う機能

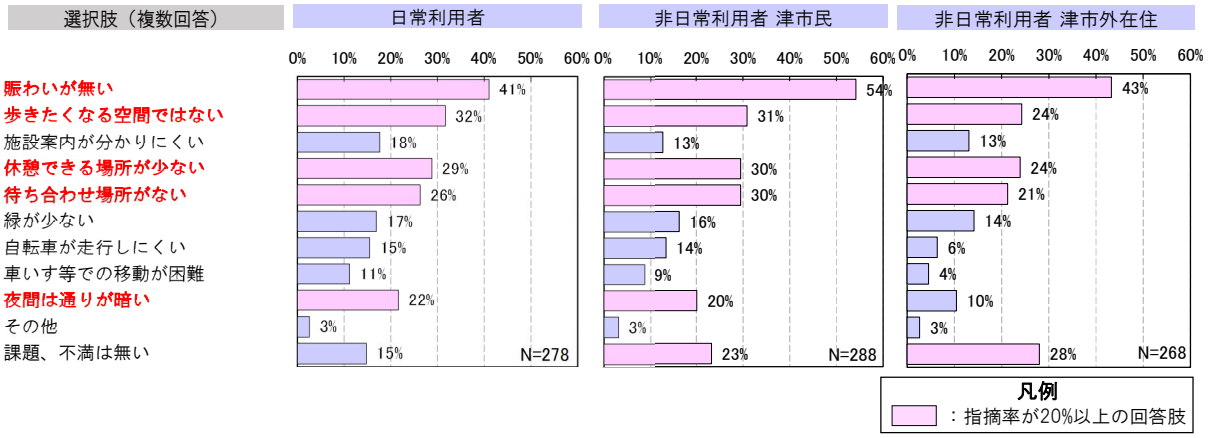
地下道（東西連携機能）に必要と思う機能としては、「高架の歩行者デッキ」「浸水時に避難可能なデッキ」「エレベーターなどの移動施設」「待ち合わせしやすい場所」「賑わいスペース」などの意見が多く見られました。



出典：津駅利用者アンケート調査結果（令和 4 年 12 月調査）

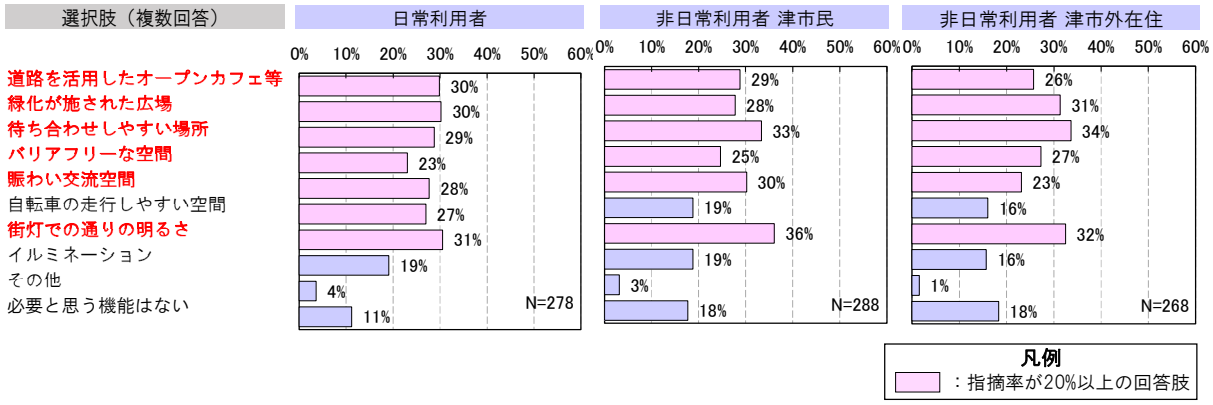
県道津停車場線（駅前通り）の不満・課題

県道津停車場線（津駅東口通り）の不満・課題としては、「賑わいが無い」「歩きたくなる空間ではない」「休憩できる場所が少ない」「待ち合わせ場所がない」「夜間は通りが暗い」などの意見が多く見られます。



県道津停車場線（駅前通り）に必要と思う機能

県道津停車場線（駅前通り）に必要と思う機能としては、「街灯での通りの明るさ」確保や、賑わいに関連する機能（「待ち合わせしやすい場所」「賑わい交流空間」）などの意見が多く見られます。



出典:津駅利用者アンケート調査結果（令和 4 年 12 月調査）

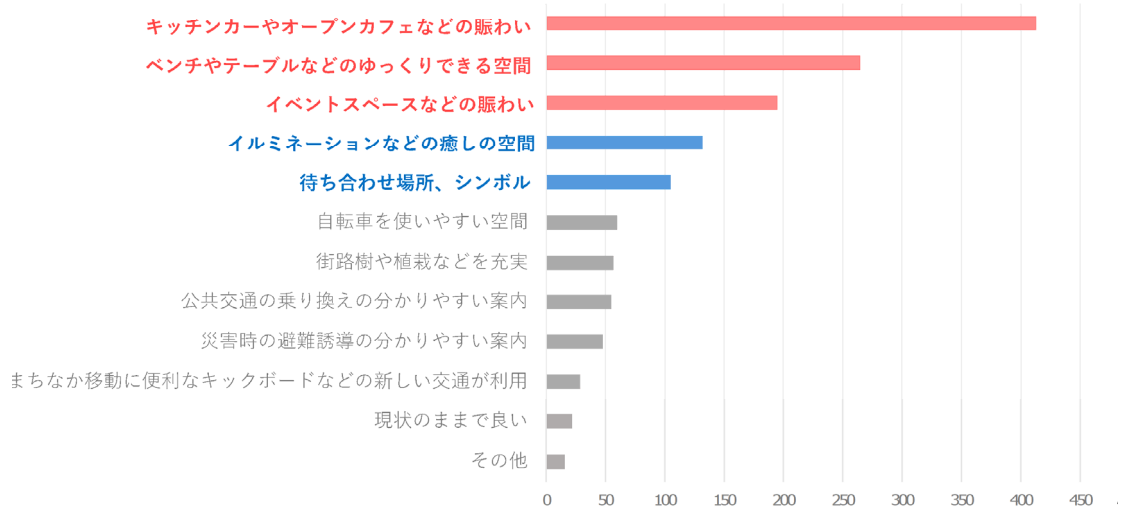
④ 道路空間利活用に関するアイデア（社会実験アンケート）

令和４年に実施した「津駅周辺道路空間賑わいの社会実験」でのアンケートでは、拡張した歩道空間に求める機能として、キッチンカーやオープンカフェ等のにぎわい創出に関するもの、ベンチやテーブルの配置など滞留空間の確保に関する意見が多く見られます。

拡張した歩道空間に求めること（複数回答）

キッチンカーやベンチ等の配置、イベントの実施が上位

イルミネーションやシンボルについても一定数の回答



出典：津駅周辺道路空間賑わいの社会実験　アンケート調査結果（令和 4 年 10 月調査）

⑤ 津駅東口周辺まちづくり懇話会におけるアンケート（一部抜粋）

津駅東口周辺を対象として、地域の抱える課題や将来像について、情報共有や意見交換等を行うことで魅力あるまちづくりを目指すことを目的として設置した「津駅東口周辺まちづくり懇話会」において、令和６年度に実施したアンケートにおいて、「にぎわい」「防災」「回遊性」の向上に必要となる機能について確認しました。

◆にぎわいの創出
・新型モビリティ、キッチンカーの駐車スペースや、ダンス、ミニライブ、ストリートアート発表の場など、イベントスペースの設置をしてほしい。
・日常での利用頻度が高い食料品や日用品が購入できるスーパーを誘致してほしい。
・津駅に行くことが目的となるような商業施設の誘致をしてはどうか。
・マンションやオフィスの誘致により居住人口及び就業人口を増やす取組みをしてはどうか。
・賑わいの拠点となるような広場を整備し、そこにシンボルツリーやテーブル、イスなどを設置して滞留できるようにしてはどうか。
・CHUM やアスト津に若者向けの飲食店の誘致や核となる店舗誘致、フードコート形式への変更を促してはどうか。
・飲食店などが気軽に出店できるようなシェアスペースの設置や駅周辺の飲食店とのタイアップなどうまく周りを巻き込んでいく必要がある。

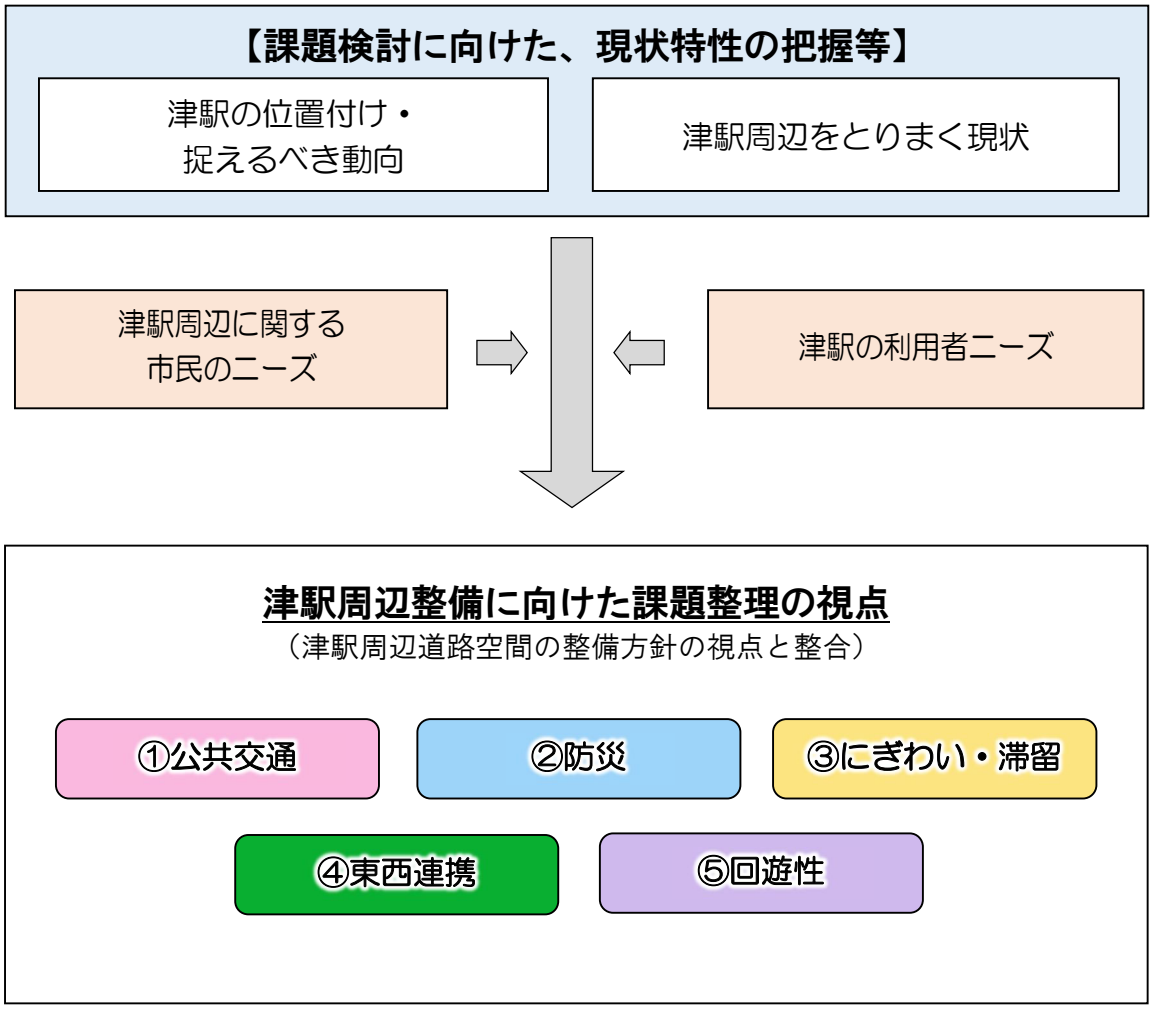
◆回遊性の向上
・行き来しやすくなれば東口、西口の両方に賑わい創出できると考えるため、駅ビルへの出入りを可能とした東西自由通路を２階レベルで設置してほしい。
・段差の解消やエレベーターの増設などバリアフリー化の推進が必要。
・バス乗降場、タクシー乗降場、一般車乗降場等の各スペースのバランスがとれておらず、一般車の乗り入れが悪いため、一般車送迎スペースの拡張と動線の確保をしてほしい。
・歩行者と車の動線を分けることで安全に回遊性を高められるので、駅から周辺の建物を繋ぐペデストリアンデッキを設置してはどうか。
・東西自由通路を計画するのであれば、単なる自由通路だけではなく、CHUM の再開発を絡めて計画を行ってはどうか。

◆防災機能の向上
・バスターミナルの立体的整備・東西自由通路・ペデストリアンデッキ等の浸水しない十分な高さの建物の整備による避難路及び一時避難場所の確保が必要である。
・避難誘導・代替輸送等の情報発信に活用するデジタルサイネージの整備をしてはどうか。
・津駅周辺の一時帰宅困難者のための災害用物資の備蓄を周辺の施設や企業が協働して面単位で行っていくシステムが必要である。
・地域の防災訓練を行ってはどうか。
・災害時のインフラ等の整備として、かまどベンチや、マンホールトイレの整備、太陽光による街灯の整備、Wi-Fi 環境の整備を行うべき。

出典：「津駅東口周辺の将来のまちづくりに向けたアンケート」（令和６年１２月～令和７年１月実施）

2-3　現状のまとめ

前段で整理したこれまでの歴史や捉えるべき動向、津駅周辺の現状特性及び、市民や駅利用者の多様なニーズを的確に捉えたうえで、令和４年に公表した「津駅周辺道路空間の整備方針」において整理した「①公共交通」、「②防災」、「③にぎわい・滞留」、「④東西連携」、「⑤回遊性」の分類に基づき、これまでの現状整理からみえる現状の問題点を整理するとともに、分類ごとにその解消に向けた視点について取りまとめます。



① 公共交通

現況整理から見る問題点

【駅東口】

○一般車用の乗降場がなく、送迎の際には無秩序に停車して乗降している状況であり、利便性、安全性が低い

一般車の停車により滞留する様子

○タクシー（乗降場・待機場）は一般車と同一の広場を共用しているため、一般車の混在による交通阻害・錯綜が発生している

○路線バスは、通勤通学のピーク時に、歩行者動線とバス待列が混雑し、錯綜が発生している

ピーク時にバス待列と歩行者で混雑する様子

○高速路線バスや企業送迎バス等の乗降場が駅周辺に点在して配置されており、徒歩で移動する必要があるなど、全ての利用者にとって便利な空間となっていない

○歩行者デッキ等の歩行専用空間が整備されておらず、乗換移動時の円滑性・快適性が低い

○交通モード間を接続する案内看板がない

●一般送迎車の乗降場が望まれている

●公共交通と一般車の錯綜が発生しないターミナル運用が望まれている

●高速路線バスは、一般車や鉄道からの乗換が主であるため、利用者の利便性向上、収益性の確保の観点から、駅前ターミナルへの集約化が望まれている

●シェアサイクルや電動キックボード等の新型モビリティ、自動運転等の先進モビリティの発展に対応できる施設整備が望まれている

○客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの

●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

【駅東口】

◆広域的な乗換需要への対応も含め、駅前広場内における多様な交通モード（路線バス・タクシー・一般車・高速路線バス・企業送迎バス等）の集約化

◆多様な交通モード（路線バス・タクシー・一般車・高速路線バス・企業送迎バス等）に対応するための交通整序化

◆歩行者が安全で快適に移動できる歩行空間の確保と、乗降スペースの再配置

◆広域交通拠点としての機能強化に資する案内誘導の充実（交通モード間の接続）

◆シェアサイクルや電動キックボード等の新型モビリティによるラストワンマイルの移動支援や、自動運転等の先進モビリティ等の新たな需要に対応できる施設の確保

現況整理から見る問題点

【駅西口】

○一般車の乗降に明確なルールがなく、バスやタクシー等の公共交通と錯綜し、無秩序で危険な状況にある

○通勤通学時間帯は、路線バスの待機スペースが不足し、駅前広場内で待機・滞留するバスが発生し、他の車両の通行に支障をきたしている

○駅前広場西側の県道津停車場・西線にバス乗車場があるため、駅前広場出口付近が渋滞し、その影響により駅前広場内が混雑している

○津駅西方面の高校（津西・津東・津商業）や三重大学附属小・中学校に通学する歩行者、東方面への歩行者、バス利用者の滞留等により、歩行者空間が不足し混雑がみられる

○駅利用者及び駅利用者以外（周辺塾利用者等）の送迎による車両滞留により混雑がみられる

○歩行者や自転車が無秩序に駅前広場内を通行しており、危険な状況がみられる

○第一駐輪場は収容台数を超える駐車率となっており、駐車枠からはみ出て乱雑に駐車される状況がみられ、駅前の景観を損ねているとともに、歩行者の安全な通行を妨げている

公共交通と一般車の錯綜

歩行者空間の不足による混雑

駐車枠からはみ出て駐車される様子（第一駐輪場）

○駅前広場内は、歩道が狭い箇所や段差のある場所などがあり、バリアフリー対応の整備が十分ではない

●一般送迎車の乗降場が望まれている

●駅前広場に待ち合わせ場所や休憩場所、学生などが憩える空間整備が望まれている

○客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの

●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

【駅西口】

◆駅前広場内における多様な交通モード（路線バス・タクシー・一般車等）に対応するための交通整序化

◆歩道拡幅や立体化による歩車分離などによる、歩行者が安全で快適に移動できる歩行空間の確保と、乗降スペースの再配置

◆自転車利用の適正化と、安全かつ適切な駐輪スペースの確保、津駅西（第一・第二）駐輪場の効果的な利活用の検討

◆待ち合わせや休憩等のための空間整備

② 防災

現況整理から見る問題点

○災害時における駅周辺の東西をつなぐ避難経路が地下道のみである
○津駅東口周辺一帯では、高潮や津波による浸水が想定されており、浸水時に地下道が使用できなくなる可能性が高い
○災害時に一時避難できるスペースが確保されていない
○市外や県外からの駅利用者が多いため、災害発生時に多くの帰宅困難者が発生する可能性がある

図　地下道への入り口（東口）

●バスターミナルの立体的整備・東西自由通路・ペデストリアンデッキ等の浸水しない立体的な整備による避難路・一時避難場所の確保が望まれている
●避難誘導・代替輸送等の情報発信に活用するデジタルサイネージの整備が望まれている
●災害時に必要な、かまどベンチ、マンホールトイレ、ソーラー照明、Wi-Fi 環境の整備が望まれている
●災害が起こった際の駅周辺の動線・避難場所の明示や防災情報の情報開示が望まれている

○客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの
●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

◆激甚化する災害に対応するため、津波や高潮による浸水発生時における東西の立体的かつ安全な移動経路を確保するための新たな通路の確保
◆災害発生時に駅利用者等が一時的に避難できる空間や災害用備蓄倉庫の確保など、駅周辺の防災機能の確保
◆災害発生時の代替輸送バスに対応した施設整備
◆災害発生時にも活用可能なデジタルサイネージの整備
◆災害発生時に備えた非常電源や通信環境など、ライフラインの確保

③ にぎわい・滞留

現況整理から見る問題点

○バス・タクシー等の交通機能には特化しているものの、駅周辺に待ち合わせや集合場所となるような空間が不足している
○駅周辺には駅ビル（CHUM）以外に大規模商業施設がない
○駅周辺の公園（栄町公園等）は、イベント等に活用されていない
○駅周辺の道路空間や公園におけるイベント実施の社会実験により、にぎわい創出の効果があった
●キッチンカーやオープンカフェ等のにぎわい創出など、駅東口通りの歩行空間を活用した交流空間の創出が望まれている
●イベントスペースの設置が望まれている。
●県都の玄関口にふさわしいにぎわいを備えた駅周辺空間になるために商業施設の充実が望まれている
●日常での利用頻度が高い食料品や日用品が購入できるスーパーの誘致が望まれている
●周辺施設の建替も踏まえ、商業施設の誘致など津駅周辺全体がにぎわうよう、一体的な整備が望まれている
●市民ニーズにおいて、学生、高齢者、家族連れなど様々な世代から、待ち合わせや休憩に使える待合空間、休憩スペースやベンチなど、滞留環境の改善が望まれている
●マンションやオフィスの誘致による、居住人口・就業人口を増やす取組みが望まれている

○客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの
●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

◆県都の玄関口として、駅利用者だけでなく、商業、業務、居住などの多様なニーズに対応した施設整備による魅力ある駅周辺空間の創出
◆駅周辺が歩いて楽しく、憩いの場や新たな交流の場となるような、にぎわい滞留空間の創出
◆まちづくりに取り組む団体等の育成
◆官民連携による民間活力の活用
◆駅周辺の道路や公園を活かしたにぎわい創出に資する整備
◆周辺民間施設の更新や誘導等の波及効果を目指した一体的な公共空間（駅前広場、道路、公園等）の再整備
◆周辺地域の土地利用を促進するための再開発事業の事業化

④ 東西連携

現況整理から見る問題点

○東口と西口を往来する場合、地下道や駅南側の公園前踏切を利用して迂回しながら通行する必要がある
○駅舎内の跨線橋は鉄道定期利用者しか利用できない
○地下道は人通りが少なく活気がない状況であり、駅南側の公園前踏切は歩車分離構造ではなく遮断時間も長いことから、安全・快適な移動経路とはなっていない

現在の地下道

○東西駅前広場のバス乗換時には、駅前広場東口バス降車場から、東西往来のための地下道が離れており、乗継が不便
○歩道橋は整備後５６年経過し、老朽化により令和５年３月から通行止めとなっており、その代替機能が必要である
○初めての来街者にとって、駅東西の往来方法が分かりにくい
●地下道は整備後４９年が経過し老朽化が進んでいることに加え、時間帯によっては人通りが少なく、児童の通学利用もあることから安全対策が望まれている
●駅の東西を快適に移動できる自由通路の整備が望まれている。

公園前踏切

歩道橋の現状（R5.3～通行止）

○客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの
●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

◆駅東西を直結し、今まで以上に駅利用者が快適かつ安全・効率的に往来可能な東西の移動経路の確保
◆公共交通の快適な乗換に繋がる東西の移動経路の確保
◆駅利用者の利便性向上に加え、駅周辺の広範囲における新たな人の流れを作り、東西地域の交流の起点となるような東西の移動経路の創出

⑤ 回遊性

現況整理から見る問題点

〇東口・西口ともに独立した案内板となっており、来街者にはわかりくい状況となっている
〇裏通りに入ると街灯が少なく、暗い状況となっており、安心して歩ける環境とはなっていない
〇中心市街地である大門・丸之内地区との回遊行動が多くみられるが、徒歩での移動は時間を要する
〇駅東側の道路空間と栄町公園を連携させたイベント実施の社会実験により、回遊性向上の効果があった
●駅ビルへの出入りが可能な自由通路の整備が望まれている
●回遊性の向上のため、段差の解消やエレベーターの増設などバリアフリー化の推進が望まれている
●人の動きを活性化させるため、目的地となるような魅力ある施設の駅周辺への整備が望まれている
●歩行者と車の動線分離による回遊性向上のため、駅から周辺の建物を繋ぐペデストリアンデッキの設置が望まれている
●シェアサイクルや電動キックボード等の新型モビリティ、自動運転等の先進モビリティの発展に対応できる施設整備が望まれている

〇客観的調査結果（データや現地確認に基づく調査）に基づくもの
●主観的調査結果（アンケート等に基づく調査）に基づくもの

問題点の解消に向けた視点

◆駅利用者が目的地まで円滑に移動可能な案内機能の充実
◆駅周辺を誰もが安心して楽しく歩きたくなる環境の創出
◆駅周辺の連携した施設整備による一体的な環境の創出
◆道路、公園等駅周辺の既存ストックの一体的な活用・整備による回遊性の向上
◆近隣地区への移動ニーズに対応した、新型モビリティ（シェアサイクル、電動キックボード等）等によるラストワンマイルの移動支援

津駅周辺地区が抱える問題点の解消の視点

① 公共交通

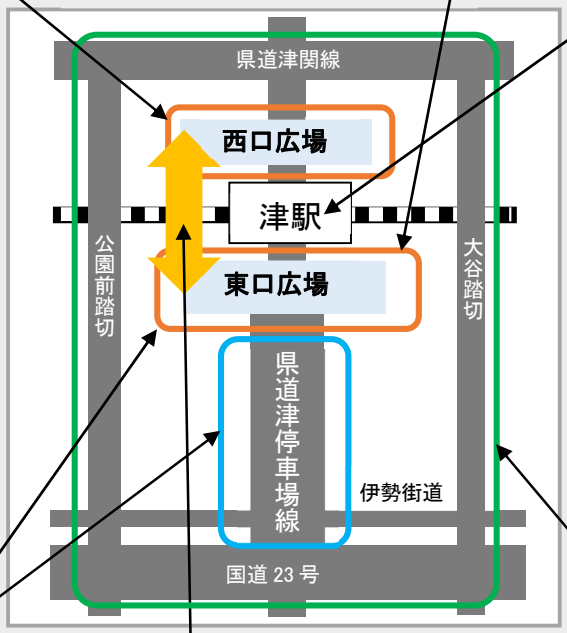
【西口】
- 駅前広場内の交通整序化
- 安全快適な歩行空間の確保と乗降スペースの再配置
- 自転車利用の適正化と安全適切な駐輪スペースの確保
- 駐輪場スペースの効果的な利活用
- 待ち合わせ、休憩場所の確保

【東口】
- 多様な交通モードの集約化
- 駅前広場内の交通整序化
- 安全快適な歩行空間の確保と乗降スペースの再配置
- 広域交通拠点としての機能強化に資する案内誘導の充実
- 新型モビリティ、先進モビリティに対応する整備

② 防災

- 立体かつ安全な移動経路確保のための通路の確保
- 駅利用者等が災害発生時に一時的に避難できる空間の確保
- 災害発生時に備えた施設整備など、駅周辺の防災機能の確保

津駅周辺地区



③ にぎわい・滞留

- 多様なニーズに対応できる、施設整備等による魅力ある駅周辺空間の創出
- 憩いや交流の場となる、にぎわい滞留空間の創出
- 再開発事業の事業化

④ 東西連携

- 安全・快適で効率的な往来や公共交通の乗換のための東西移動経路の確保
- 東西地域の交流の起点となる東西移動経路の創出

⑤ 回遊性

- 目的地まで円滑に移動可能な案内機能の充実
- 駅周辺を安心して楽しく歩きたくなる環境の創出
- 新型モビリティ等によるラストワンマイルの移動支援